別添２

「東京都教育施策大綱(案)」　骨子
～誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育を目指して～

第１章　「未来の東京」とそこに生きる子供たちの姿

１　「未来の東京」の姿

○　グローバル化等による多文化共生社会の進展や、AI、IoT、ビッグデータ等、先端技術の社会実装による Society5.0 時代が到来しつつある中、デジタルトランスフォーメーションにより、世界における東京の存在感の一層の向上が必要

○　新型コロナウイルス感染症から未来に向けた復興を目指す中では、「サステナブル・リカバリー（持続可能な回復)」という新たな視点が重要

２　「未来の東京」に生きる子供の姿

○　子供たちは「未来の東京」の担い手であり、「社会の宝」

○　子供たちが調和のとれた大人に育つためには、すべての子供が社会全体で大切にされ、笑顔で伸び、育つ環境の整備が必要

○　子供たちには社会の変化を柔軟に受け止め、生涯にわたって様々なことに粘り強く挑戦し、自ら学び続けていく姿勢が大切。教育によって、その素地を養うことが必要

○　こうした「未来の東京」に生きる子供たちの姿を、次のように描く

【子供の姿】

■　自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓(ひら)いていくことができる

■　他者への共感や思いやりを持つとともに、自己を確立し、多様な人々が共に生きる社会の実現に寄与する

○　子供たちがこのように育っていくためには、次のような資質が必要

【子供の姿】

■　自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、
人生を切り拓(ひら)いていくことができる

【求められる資質】

○　子供たち自身が、生涯にわたって、新たに遭遇する課題や抱える悩みに向き合い、能動的に解決しながら生きていこうとする姿勢が必要

○　知識の習得だけでなく、自分の可能性を自分で認め、自ら考え、持てる力を伸ばし、発揮していく力を身に付けていくことが必要

【子供の姿】

■　他者への共感や思いやりを持つとともに、自己を確立し、
多様な人々が共に生きる社会の実現に寄与する

【求められる資質】

○　多様な人々が共に暮らす社会を生きる子供たちには、自分を大切にする気持ちと同様に他者も受け止め、お互いを理解し、尊重する気持ちを育てることが重要

○　特に、ＩＣＴを介したコミュニケーションの機会がますます増加していくこれからの社会においては、これまで以上に相手の状況や立場を理解し、共感と思いやりの心をもつことが不可欠

○　新たな社会を築く意識を持ち、そのために何をすべきか、自ら考えることができる力を身に付けていくことが必要

○　我が国の礼節を重んじ、互いに助け合って生活する国民性や美徳を、一人ひとりの子供に確実に育んでいくことが必要

第２章　東京における教育の在り方

１　東京の目指す教育

○　これまで以上に子供や保護者、教職員等の目線を大切にしながら、新しい時代に対応した教育の在り方を確立し、「未来の東京に生きる子供の姿」を実現

○　子供たちが、自らの人生を豊かなものとし、未来の社会の担い手として活躍していくために、子供の目線を大切にしながら、社会全体で見守り、支えていくことが重要

○　誰一人取り残さない教育を実現し、すべての子供が将来への希望を持って、伸び、育つ東京を創りあげていく

【東京の目指す教育】

誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、 自ら伸び、育つ教育

２　「東京の目指す教育」の実現に向けて

（１）実現に向けた取組

①　すべての子供が自ら伸び、育つために

○　すべての子供が自ら伸び、育つためには、子供の意欲を引き出すことが必要

○　特別な支援を必要とする子供の数が増加し、同時に支援の輪も拡大

○　外国にルーツを持ち、学習に言葉の壁がある子供が増加。同時に学校は様々な国にルーツを持つ子供が共に学ぶことが当たり前の環境となり、日本語学習ツールの開発も進行

○　子供たち一人ひとりの違いを個性として受け止め、自ら伸びようとする意欲を引き出す学びを実現

②　子供たちが将来への希望を持つために

○　子供たちが将来への希望を持つためには、将来の自分の姿をイメージできるようにすることが必要

○　子供たちが社会とのつながりの中で、学びの意義や意味を理解できることが大切

○　学校が社会とのつながりを深め、子供たちが将来への道がつながっていることを実感できる学びを積み重ねる

③　誰一人取り残さないために

○　一人一台端末の環境整備が進み、理解度や学習の進度に応じた学びを提供するとともに、誰一人取り残さず、多様な学びの場での教育を実現

○　これまでの実践に加えて、ＩＣＴを最大限に活用

（２）「東京の目指す教育」の実現に向けた基軸となる３つの「学び」

○　「東京の目指す教育」を実現するために、それぞれの取組から帰結する「学び」は、日々の教育活動の中で最適に組み合わせながら、一体的に実施

○　これらの「学び」は、「東京の目指す教育」の実現に向けた「学び」であると同時に、日々の教育活動の取組を形作る「学び」でもあり、それぞれを強化することが重要

○　本大綱で、以下の３つの「学び」を「東京の目指す教育」の実現に向けた基軸として定め、実践

【３つの「学び」】

■　子供の個性と成長に合わせて意欲を引き出す「学び」
■　子供の成長を社会全体で支え、主体的に学び続ける力を育む「学び」
■　ＩＣＴの活用によって、子供たち一人ひとりの力を最大限に伸ばす「学び」（教育×DX※）

※　DX＝デジタルトランスフォーメーション

（３）３つの「学び」を実践するための視点

○　３つの「学び」を実践するに当たっては、子供自身の目線や、東京の強みを最大限活かしながら、東京ならではの教育や学びを実践

①　子供目線を大切にする

○　生涯にわたって様々なことに粘り強く挑戦し、自ら学び続けていくためには、教育においてその素地を養うことが必要

○　体験や経験等によって新たな気づきを得て、意欲を持って主体的に学ぶことができるよう、子供目線を大切にした学びを実現

②　東京の強みを活かす

○　東京には、多様な専門人材など、豊富な社会資源が集積。また、コロナ禍を経てデジタルトランスフォーメーションが加速。これらは東京の強みとなっている

○　これまで積み上げてきた教育の成果を発展させていくとともに、これらの強みを最大限に活用

○　「子供目線」や、「東京の強み」を大切にしながら、３つの「学び」を基軸として、

それぞれを充実・強化するとともに、有機的に連携させながら施策を展開

③　３つの「学び」の具体的な考え方

[子供の個性と成長に合わせて意欲を引き出す「学び」]

○　子供たちが意欲を持って主体的に学ぶためには、「各教科等を学ぶ意義」や、「学ぶことの楽しさ」について、実感を伴って理解できることが必要

○　子供たちの学習の進度や学年段階などに応じた教育を提供するためには、子供の状態を随時把握し、常に改善を図りながら実践を継続していくことが必要

○　学校においては、一人ひとりに最適な学びを提供することが必要。教員は、ファシリテーターとして、子供たちの意欲を引き出し、学びを導き、教育の質の向上に結びつけていくことが大切

[子供の成長を社会全体で支え、主体的に学び続ける力を育む「学び」]

○　子供たちが、新しい時代に求められる資質・能力を身に付けるためには、「より良い教育を通じてより良い社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、協力・連携して取り組むことが必要

○　学校において、外部の人的・物的資源を積極的に教育活動に取り入れていくことや、子供たちのおかれた状況に応じて、多様な学びの場を創出していくことが大切

○　加えて、様々な状況におかれたすべての子供たちを社会全体で支えていくことで、誰一人取り残さない教育を実現していくことが重要

[ＩＣＴの活用によって、子供たち一人ひとりの力を最大限に伸ばす「学び」（教育×ＤＸ）]

○　子供たちの学ぶ意欲に応え、力を最大限に伸ばすためには、子供一人一台の端末と学校における高速大容量のネットワーク環境を最大限に活用していくことが大切

○　ＩＣＴを活用して「何を教えるか」「どのように教えるか」を検討して教育のデジタルトランスフォーメーションを強力に推進し、知識習得型の学びと探究型の学びのベストミックスを図るとともに、蓄積されたビッグデータを教育施策へ反映・展開していくこと等が必要

○　子供たちの状況に合わせた学ぶ機会の拡充や、リアル（対面学習）とバーチャル（オンライン学習）を効果的に組み合わせ、いかなる状況でも子供たちの学びを止めない仕組みの構築が必要

3　「東京型教育モデル」の実践

（1）「東京型教育モデル」とは

○　教育の理想やその実現に向けた取組は、社会の変化に伴って、常に変化が必要

○　そこで本大綱では、以下の①～③を、「**東京型教育モデル**」として位置付け、教育施策全体を展開

①　３つの「学び」を有機的に連携させて創出する新たな学び

②　それを日々実践・改善を繰り返しながら理想の学びを追求

③　それらによって「誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育」を実現するという教育の在り方

○　こうした教育の在り方を社会全体で共有。社会の変化にも柔軟に対応しながら実践

（2）「東京型教育モデル」における学びの場

○　「東京型教育モデル」の実践において、子供たちの学びの場を地域や社会全体に展開。教育の理想やその実現に向けた取組を、学校や地域社会が共有し、連携して実践していくことが重要

①　学校の役割

[学校における教育活動]

○　学校は教育活動の中心的存在であり、「東京型教育モデル」を実践する最も重要な場

○　学校においては、子供の興味・関心を生かした「個に応じた指導」が重視されてきた。今後はＩＣＴによる学習履歴等を活かすことで、更に子供たちに最適化された学びを提供することが可能

○　学校は学習面のほかにも、他者との関わりや、集団や社会生活に関する教育、健康や体力に関する教育等、「知」・「徳」・「体」を一体的に育む教育を実施

[教え方、学び方の転換]

○　学校における人間関係づくりは、社会を形成していくうえで不可欠。教員と子供や子供同士の関わり合い等、実体験を通して学ぶことの重要性は、これからの時代にこそ、一層高まる

○　今後、学校においてこれまで以上に外部の人的・物的資源を取り入れ、社会とつながる体験や経験の場を設けることで、子供たちが新たな気づきを得られ、主体的な学びの実現に寄与

○　学校において、これまでの成果に「東京型教育モデル」の実践を組み合わせ、教育内容や方法の改善、充実を図り続け、子供たち一人ひとりの伸びる、育つ力を最

大限に引き出していくことを期待

[子供を導く教員]

○　学校において、子供を導く教員の役割は大きい

○　教員は子供たちの力を引き出す役割を担うとともに、子供の主体的な学びの伴走者でもある

○　教員自身がＩＣＴを活用することに加え、きめ細かい指導や支援といった、子供との関わりの中で、成長などを見いだしていくことが必要

○　教員には、学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、生涯を通じて探究心を持ちつつ、新しい知識・技能を学び続けることが必要

[地域の拠点として]

○　学校は、地域の拠点としての役割等も担う

○　地域や社会の人々も、学校との関わりを通じて生涯にわたって学び続ける意義に触れ、子供たちと共に成長し続け、未来の社会を創っていくことが、「すべての人が輝く」社会の実現に寄与

②　地域や多様な主体と連携した、多様な学びの場

○　すべての子供が笑顔で伸び、育つためには、子供たちのおかれた状況に応じた、多様な学びの場の創出と提供が必要

○　子供にとって最適な学びの場は、それぞれの個性によって異なる。子供たちが安心して学び続けられる環境の整備が必要

○　地域や社会には、民間団体などの様々な主体が運営する学びの場が存在。子供たちが学校をはじめとして、自分に合った学びの場を選択できる社会の実現が必要

○　学校と地域社会の様々な主体が互いに連携しながら「東京型教育モデル」を実践し、子供の成長を支え、見守っていくことが必要

第３章　「東京型教育モデル」で実践する特に重要な事項

○　「未来の東京に生きる子供の姿」や、「東京型教育モデル」の考え方を踏まえ、次の６つについて、特に重要で優先的に取り組む事項とした

【「東京型教育モデル」で実践する特に重要な事項】

1　一人ひとりの個性や能力に合った最適な学びの実現
2　Society5.0 時代を切り拓(ひら)くイノベーション人材の育成
3　世界に羽ばたくグローバル人材の育成
4　教育のインクルージョンの推進
5　子供たちの心身の健やかな成長に向けたきめ細かいサポートの充実
6　子供たちの学びを支える教師力・学校力の強化

○　各事項においては、
「子供の個性と成長に合わせて意欲を引き出す『学び』」
「子供の成長を社会全体で支え、主体的に学び続ける力を育む『学び』」
「ＩＣＴの活用によって、子供たち一人ひとりの力を最大限に伸ばす『学び』（教育×ＤＸ）」の３つの「学び」を、有機的に連携させながら施策を推進

○　これらは相互に密接な関係を有していることから、施策として一体的に展開

1　一人ひとりの個性や能力に合った最適な学びの実現

○　予測困難な時代において、すべての子供たちが社会環境の変化に適切に対応していくためには、子供たちに合わせて、学びを導いていくことが必要

○　すべての子供たちが必要な基礎的、基本的な知識・技能を確実に習得できるようにするとともに、成長段階も踏まえて、個性や能力に着目した最適な学びを創出

2　Society5.0 時代を切り拓(ひら)くイノベーション人材の育成

○　子供たちが Society5.0 時代を主体的に生きることができるように、新たなイノベーションや価値を創造する人材や、デジタルトランスフォーメーションを推進する人材の育成が必要

○　地域の課題から地球規模の諸課題まで幅広く自らの課題として考える教育等を推進

3　世界に羽ばたくグローバル人材の育成

○　子供たちが外国語を当たり前に使いこなすとともに、我が国や郷土が育んできた伝統や文化に立脚した広い視野や、豊かな国際感覚を身に付けた人材を育成することが必要

○　ＩＣＴ機器の更なる活用を促進し、子供たちの語学力の向上を図るとともに、豊かな教養や論理的思考力、異文化への理解などの育成を図る教育を推進

4　教育のインクルージョンの推進

○　すべての子供たちが、主体的、積極的に社会参加するとともに、互いを理解しながら、一人ひとりの 「心のバリアフリー」を実現することが必要

○　多様な人々と学校生活を通じて接し、共に生きる経験が子供たちにはとっては重要であり、その経験が、他者への共感と思いやりを育てることにつながる

○こうした教育のインクルージョンを推進するためには、病気や障害等の状況にかかわらず、すべての子供たちを受け入れていく姿勢や専門性が必要

○　様々な状況の子供たちが、充実した時間を過ごせる環境や、柔軟な仕組みによる多様な学びの場の整備により、人々が共に支え合い、認め合い、尊重し合う心を育成

5　子供たちの心身の健やかな成長に向けたきめ細かいサポートの充実

○　心の問題や人間関係、家庭の状況など、子供たち一人ひとりの課題や悩み等は様々こうした様々な状況の子供に寄り添い、これまでの学校や教員の知見に加えて、社会全体で子供たちの心身のきめ細かいサポートが大切

○　他者への思いやり、掛け替えのない生命を大切にする気持ちなどを、一人ひとりの子供たちに確実に育成

○　生涯にわたって心身の健康を維持していけるよう、「知」・「徳」・「体」の「徳」や「体」に関する教育を充実

6　子供たちの学びを支える教師力・学校力の強化

○　重要事項１から５までの実践に当たっては、教師力や学校力が要（かなめ）

○　学校においては、新たな時代の学びへの対応とともに、子供の安全・安心を確保し、地域の拠点となる役割等が期待されており、学校や教員の持つ力の更なる強化が必要

○　すべての子供たちが自分らしく個性や能力を伸ばすためには、質の高い学びの実現が必要であり、教師力の強化が重要

○　教員について、研修の充実等によって教科の専門性を向上し、最先端の知識やＩＣＴリテラシー等、指導力の向上を不断に図るとともに、優秀な教員を確保するための施策の充実が重要

○　また、学校力の強化として、子供たちが、生涯にわたって学び続け、挑戦し続けるための素地を養うことできる環境の整備を進めることも必要

○　加えて、社会全体の力を活かして子供たちを育むために、学校と家庭・地域との連携・協働を充実させるとともに、学校における運営体制の整備や組織力の向上を推進

○　学校が地域人材や高齢者などとの交流の拠点として機能し、災害発生時には避難所になることなども踏まえ、防災強靭化やバリアフリー化など施設・設備の充実を推進